



第82号
 ■発行者■
 退職校長会 相馬支部
 支部長 山下 富夫
 ■印刷者■
 (有)ライト印刷

コロナ禍の中で



支部長 山下 富夫

昨年度に引き続き、相馬支部長を務めます。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。人数制限をした総会、四月の県評議会が主な会議でした。六月予定していた会津大会は、集会をせず大会資料を全会員へ配布することとしました。予定していた九月の支部長会は書面による会議となり、メールや書類のやりとりで連絡をとってまいりました。支部内の会議は、役員会を書面会議としましたが、編集委員会、会計監査については、感染対策を万全にして集まっていたいただきました。関係者には、多大な

ご協力をいただき、令和四年度を迎えることができました。

四年度におきましても、総会は、一昨年度に習い、役員会を含め書面会議としました。さらに四月の県評議会も書面会議となりました。県大会郡山大会は、準備会議が思うようにできないことから、五年度への延期が決定しています。なお、このときの体験発表を相馬支部が割り当たっています。

感染者は、ますます増加の傾向にあり、今第七波の渦中にあります。高齢者会員の多い本会においては、集会開催は特に慎重でなければならぬことは、ご承知の通りです。

二月のロシアのウクライナ侵攻以来、物価高が続く、支部予算にも、少なからず影響が出ています。例えば、

会報発行の印刷費の値上げを印刷会社から要求を受けています。今年度は予算内でできそうですが、来年度に向けて考えなければなりません。

また、会員同士の交流の機会が少なくなると関係が希薄になり、支部のねらいの一つが十分に達成できなくなります。来年度の総会は、集会ができるようにしたいと願っています。各クラブ活

動や地区退職校長会については、役員の皆様の工夫した運営に感謝しているところですが、さらなる活性化は、コロナの落ち着き次第のようです。

緊迫する世界情勢と感染症が、一線を退いた私たち会員にとつて、大きく負担感を感じさせます。会員の皆様には、本会についていろいろとご協力賜りますが、まず、健康第一にお過ごしください。

寄稿「教える」

福島県教育庁相双教育事務所長 横山 修



指導主事をしていた時に、対照的な授業を見ました。低学年の図画工作か生活科の授業だったと思います。一組と二組で同じ授業をしていました。紙を二つに折って、折り目のところが背中になるようにゾウをかき、はさみで切り取るという場面でした。

一組の先生は、子どもを教卓近くに集め、実物を操作しながら詳しく説明しました。

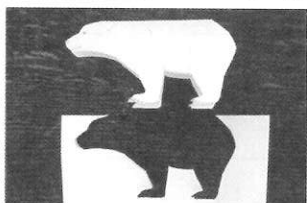
そして、「紙の真ん中にゾウさんかくと、背中がつながりません。二枚のゾウになつてしまいます。必ず背中がつながるよう描きましょう。」と注意しました。作業が始まると、子どもが失敗しないようにこまめに個別指導をしていきました。うまくできない子には手伝ってあげていました。しばらくすると、クラスの子全員が、ちゃんと四本足で立つゾウを作ることができました。

二組の先生の指導は違いました。先生は、できあがったゾウを見せたり、みんなので

ろいろな動物を作って動物園にしようとして投げかけたりして、子ども達の意欲を高めると、何の説明もせず、紙を与えました。子ども達は、二つ折りにした紙の真ん中にゾウをかき、切り取りますので、二枚のゾウになってしまいました。先生は紙をたくさん用意しておき、失敗した子には黙って紙を与えました。子ども達は何回も失敗して、先生の見たたり他の子の子を見たりして、「分かった！こうやればいいのか」となりました。

相双地区は子どもの数が少なく、少人数の学級が増えています。電子黒板やデジタル教科書、AIDドリルなど、ツールも充実してきました。どんどん「教え」易い環境になっていきます。そのせいもあってか、一組のような授業が増えてきたような気がします。

「教える」とはどういうことなのか、先輩方から御指導いただきたいことを思い出しながら、先生方と一緒に考えていきたいと思えます。



支部定期 総会報告

第五十八回福島県公立学

校退職校長会相馬支部総会
及び懇親会を令和四年四月
中旬に予定していましたが、

新型コロナウイルスの感染再
拡大の影響を鑑み、参加者の
皆さまの健康・安全を第一に
考慮した結果、総会の開催は
困難ととらえ、やむを得ず書
面開催という判断に至りまし
た。

総会は、昨年度の会務報
告・決算報告、今年度の事
業計画・会計予算等について
審査していただく重要な決議
の場ではありますが、このよ
うな状況を考慮していただ

き、何卒ご了承のほどよろし
くお願いいたします。また、
ご参加を予定していただきました会
員の皆様、並びに総会に向けた
事前準備をされていただきました
各地区役員の皆様には、改め
てお詫び申し上げます。

さて、今年度の新入会員は、
新入会員紹介にもあります
ように六名の方に入会してい
ただきました。年度当初の支
部会員数は、新入会員の方も
含めて百八十二名となりました。

なお、県退職校長会評議員
会（四月二十七日予定）は書
面開催となり、県（郡山）大
会は、新型コロナウイルス感
染拡大により、一年延期して
令和五年度の開催予定とな

りました。
まだまだ、先の見通せない
状況が続きますが、支部活動
の充実のために、置かれた状
況の中で最善を尽くすべく計
画等に変更が生じる場合も
ありますので、ご理解の上、
ご協力のほどよろしくお願い
いたします。

新型コロナウイルス感染症
発生から三年が経過し、感染
対策の様々な知見が蓄積さ
れ、文化・スポーツなど日常
生活に対する要求・要望は一
層高まることが予想されます。
一日も早い新型コロナウイルス
会員の皆様のご健康とご多
幸、益々のご活躍を心よりお
祈り申し上げます。

令和4年度 努力事項

1. 会員相互の親睦と健康増進を図ると共に、地域の教育振興に資する。
 - 東日本大震災の復興・復旧に努め、各学校を支援する。
 - クラブ活動の充実と積極的参加をすすめる。
 - 生き生きヘルシー運動を推進する。
2. 研修活動の充実と生きがいのある生活の推進に努める
 - 生涯学習、ボランティア活動への参加を推進する。
 - 子どもを守る地域支援活動への積極的参加を推進する。
 - 広報活動（「会報そうま」）を充実する。
 - 各地区において現職校長との教育懇談会をすすめる。
3. 叙位叙勲申請の預託を推進する
 - 各地教委ごとに預託者を確認し、預託を推進する。

※新型コロナウイルス感染拡大防止を念頭に、工夫した活動を行う。

令和4年度 事業計画

- 4月 新入会員の加入促進
- 4月 第58回相馬支部総会（書面開催）
- 4月 県公立学校退職校長会評議員会（書面開催）
- 6月 『会報そうま』第82号編集委員会
- 8月 『会報そうま』第82号発行
- 9月 退職校長会の要望活動（新地町、相馬市、南相馬市、飯舘村）
- 11月 『会報そうま』第83号編集委員会
- 2月 『会報そうま』第83号発行、三役会
- 3月 会計監査、理事会

令和4年度 会計予算

1. 収入総額 701,545円

項目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	付 記
繰越金	49,543	66,535	▲16,992	
会 費	652,000	664,000	▲12,000	4,000円×163名(含新入6名)
雑収入	2	5	▲3	預金利子
計	701,545	730,540	▲28,995	

2. 支出総額 701,545円

項目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	付 記
会議費	15,000	40,000	▲25,000	会議湯茶
旅 費	35,000	50,000	▲15,000	役員会、編集委員会
事務費	120,000	120,000	0	事務用品、送料・振込料、会報発行事務
慶弔費	115,000	100,000	15,000	賀寿、叙勲等の記念品 弔慰金
負担金	244,500	249,000	▲4,500	県納金1,500円×163名
事業費	170,000	166,000	4,000	会報(第82号、第83号) クラブ活動補助金
予備費	2,045	5,540	▲3,495	
計	701,545	730,540	▲28,995	

3. 差引残高 0円

令和4年度

福島県公立学校退職校長会

理事					相馬支部役員		
新地	加藤 潤一				支部長	山下 富夫	
相馬	但野 真一	吉内 次夫	渡邊 博之	太田 孝泰	副支部長	浜名 俊明	高 篠 忍
鹿島	星 和彦 遠藤 秀通				監事	大浦 清孝	牛渡 忍
原町	大原 正義	佐藤 光正	玉川 雄一	草野 正徳	幹事	菊地 義広	林 宗一郎
小高	金谷 哲 飯塚 宏						

地区役員					
地区	会長	副会長	事務局		会員数
新地	菅野 耕平	目黒 壽一	吉田 雄二(庶・会)		8
相馬	石川 一夫	但野 真一	吉内 次夫(庶)	佐藤 博(会)	59
鹿島	浜名 俊明	遠藤 秀通	星 和彦(庶)	阿部 テル子(会)	18
原町	高野 敦夫	清信 悦孝	大原 正義(庶)	草野 正徳(会)	76
小高	牛渡 忍	佐藤 雅夫	飯塚 宏(庶)	金谷 哲(会)	21

誠におめでとうございます

令和三年秋の叙勲

瑞宝小綬章

玉川一郎様

(元・郡山東高等学校校長)

お待ちしております
おりました。
新入会員紹介
一氏 名(最終勤務校)
言



伊東 敏勝 (大野小)

四月より再任用教諭として、原町第一中学校のスペシャルサポートルームを担当させて頂いております。不登校傾向の生徒たちの学習支援や居場所づくりのために、試行錯誤の毎日です。また、久しぶりのバスケット部顧問となり、浦島太郎状態ながらも、生徒たちとかわれることに喜びを感じて勤務しております。



伏見 康弘 (原町一小)

四月から南相馬市の適応指導教室「やすらぎ広場・さくら教室」に勤務いたします。様々な問題を抱え、なかなか登校できない子どもたちの学習を支援したり、体をほぐすために一緒に卓球をしたりしています。さ

らに、子どもたちが社会的自立を図ることができるように、日々の支援を頑張っています。



高田 昌幸 (太田小)

四月より、再任用教諭として中村第一小学校に勤務しております。毎日、馬陵城の堀や曲輪を眺められるのは望外の喜びですが、若い先生方の足手まといにならないようRSTの勉強や、教材研究に努力する毎日です。今後ともよろしくお願いたします。



草野 収 (鹿島小)

四月より「東日本大震災・原子力災害伝承館」に勤務しています。伝承館では、様々な団体や個人の来館者に対するアテンド、震災や原子力災害、避難や地域の状況についての説明をしています。県内外から児童生徒の来館があり、伝承や防災の話などを通して、見学の学習の支援ができればと思



伊藤 浩樹 (原町一中)

四月より、縁あって南相馬合同庁舎で仕事をさせていただいています。教員とは全く違う世界の中で、戸惑うことばかりですが、携帯電話を手放して生活できる解放感に浸りながら、毎日を送っております。今後とも微力ですが、皆さんの迷惑にならないようできることを精一杯やっていきたいと思っております。



堀川 泰宏 (小高小)

起床↓豆乳作り↓朝食↓野菜の収穫(大きくなってから)↓洗濯(天気は大丈夫か)↓昼食↓夕食の準備(何にしようかな)↓部活動指導(探究と反省)↓夕食(ちよっと一杯)↓就寝。畑仕事や地域の方との交流、部活動指導員等やりたいことをやっています。充実した毎日ではいきませんが楽しい毎日です。

脳トレ+筋トレ

「暇なし」

荒木 幸子



退職した年の五月に令和の時代となり、早いもので四年目を迎えました。

当初はのんびり過ごすごとができるかと夢見ておりましたが、生来じつとしていることが最も苦手な性分、気が付くと相変わらず走り続ける日々です。いろいろな活動を脳トレや筋トレと

称して暮らしております。

まず、脳トレについて。

退職後も「少しは世のため人のためお役に立ちたい」と思つて始めたことが音訳ボランティアです。視覚障害者に読んで伝える活動を「音訳」といいます。障害のある方と向かい合つて本や書類を読むこと(対面音訳)と、読み上げて録音図書を製作することがおもな内容です。そこに至る道のりはハードルが高く、選考合格通知の後、一年間の厳しい養成講座を受講して晴れてデビューとなります。

一冊の本を渡されると、正しい読み方を調べ(これが一番の脳トレか?) 図や挿絵、写真等の読み方を考え、原稿を作成して録音開始。標準アクセントで感情なしに淡々と読むこと、苦戦の連続です。マイクに向かい三ヶ月以内に仕上げ、提出後、二人の校正者から一字一句チェックを受け、修正して録音図書が完成です。忙しい中でも私たちの音訳により視覚障害者の方々の役に立ち、喜んでいただけると実感できてやりがいがある。

あります。音訳者の中には九十代の先輩も活躍中で、私はまだ若輩者です。

筋トレは平日三時間ジム通い、ホットヨガ、フラ、ピラティス、ラン、ウエイトをこちらでも元気な先輩方や仲間と汗を流します。週末はお借りしている二十坪の畑で野菜栽培、収穫を喜び、新鮮な野菜を味わい楽しんでいきます。これに家事を加えると正に走り通しで、時折傍らから聞こえる「ほどほどに…」の声、思わず笑つてしまいます。

明日も良い一日に!

無理のない

生活リズムを

菅野 耕平



後期高齢者域に入ってから、日常生活の中で考える

のは「健康維持」のことである。特別な事は考えていないが、今、心掛けていることを述べてみたい。

- 1、日常生活に目標を持つ
- 2、睡眠時間を充分に取る
- 3、三度の食事は適量を(晩酌も…)
- 4、毎日、身体を動かす(ウォーキング、家庭菜園など…)

家庭菜園は無農薬有機栽培を心掛け播種から収穫まで、朝に夕に畑に行き、作物との対話の時間…そして何より収穫した野菜を肴に飲む一杯は格別で、食する喜びもまた格別で私の活力の源になっている。

5、趣味を楽しむ(ゴルフ、そば打ちなど…)

町の生涯学習として始まった「そば打ち教室」の講師として関わるようになって十年近く、顔なじみとなった教室生、(主にシニアの男性)とのわきあいあいのそば打ちの時間は楽しみの一つとなっている。体力がなければ何事も出来ない今の生活リズムを守りながら「健康維持」に努めたいと思つている。

歩く・走る

仕事する

吉内 次夫

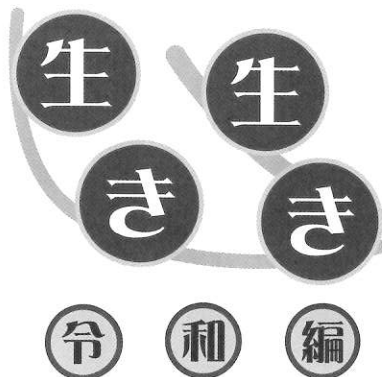


若いときは、土日の休みには、周辺の散歩一時間程度、長期の休みには、一時間程度のサイクリング、幸い、松川浦の湾の奥に住んでいるので、震災後の復興の様子を眺めながら、健康維持を兼ね歩いたり走ったりしていました。健康を維持するため今もそれらをしなくてはならないと思いつつ、一年ご

ヘルシー

— healthy —

～ 執筆2巡目連載中～



とに、その意欲も減退して
います。これが歳を重ねる
ことなんだと感じています。

退職後、中村一中でスペ
シャルサポートルームを担
当しています。はじめの年
は、不登校生徒をスペシャ
ルサポートルームに登校さ
せるか思案し、二年目は学
力を身につけさせるかに迷
い、その甲斐あったのか三
年目はスペシャルサポート
ルームを利用する生徒が決
まってきました。現在、一日
六人から七人、最大で九人
から十人と利用生徒が増え
てきました。(内心増えない
でほしいと思っています)

生徒はそれぞれに所属学
級へのいきづらさは異なり
ますが、頑張って授業へ出
れる教科もあります。今ま
での三年間ではなかった生
徒の行動です。そしてフレ

ンドシップに生徒がいる時
には、質問があれば、それ
に応えながら仕事をしてい
ます。

このように今でも、生活
スタイルを変えることなく
毎日を過ごしています。

生徒に教えているときに
は熱中してしまいます。長
年の性でしょうか。解って
もらえたことに喜びを感じ
ます。登校できない生徒が、
登校してくるととても嬉し
く感じます。

最近、首や肩が痛く、整
形外科に通い、薬をもらっ
て飲んでいますが今のところ
薬はこれだけです

私が健康なのはほとんど
変わらない生活リズムでは
ないのかと感じています。
健康なうちは、好きな仕事
をし、松川浦を散策して過
ごしたいと思います。



今まで

そしてこれから

門馬 正純



原稿依頼⇒退職から今ま
でを振り返る良い機会をあ
りがとうございました。

二〇二二年退職。①妻の
病氣治療のため。②父と母
が別々ですが介護施設に落
ち着けたこと。③任期を終
え隣組長の引継ぎが無事終
了したことで、五月十一日
流山市に移ることにしまし
た。

同年七月、鹿島小に支
援物資や励ましの手紙を
届けて下さった新松戸南小
を訪れ、感謝の意を伝える
と、震災体験の話の依頼を
受けました。資料を整え
二〇二三年三月、同校の防
災訓練で震災体験の話をし
ました。

その後、流山市、三郷市、
東京都渋谷区の小中学校、

千葉県内の病院、住宅管理
組合、青少年会館、教育会
館などで、様々な方々に体
験や自助・共助・減災につ
いて、話をする機会を戴き
ました。又、震災の体験か
ら行政・学校・地域が役割
分担を確認し、連携しなが
ら避難所開設・運営してい
く学社連携の形へ移行の手
伝いもさせて頂きました。

私と家族に関しては、
二〇二三年四月から流山市
生涯学習専門員として高齢
者学級を担当しましたが、
父が避難先の猪苗代町で逝
去したので、二〇二四年度は
生涯学習専門員を辞し、相
続の手續きに専念し、手續
きを終えました。二〇一七
年には、母が避難先の那須
塩原市で亡くなりました。

その後、現在、新松戸南
小の学校評議員、東日本大
震災復興支援松戸・東北交
流プロジェクト共同代表、
依存症の人々の病院や施
設の訪問、マンシヨン管
理組合理事長の四つの組
織・団体の仕事をしてい
ます。体験から学んだこ
と、伝えたいこと、役に
立つのではないかと思う

ことを述べるよう努めてい
ます。一方では見方を変え、
新しい社会勉強で学ばせて
戴いていると感謝して、取
り組んでいます。

退職からの十年は、家族
の分断、死別、避難生活と
目まぐるしい十年でしたが、
いろいろなことを学んだ十
年でもありました。これか
らは、今置かれていますこ
ろで、自分ができるところ、
組織でできることをして、
夫婦仲良くこつこつと歩ん
でいきたいと考えています。



クラブ活動

園芸(庭木)クラブ

渡部 長男

野菜の露地栽培は、常に天候に左右されます。今年の春程、気温差の激しい年はありませんでした。このため野菜の成長は様々でした。

確実に野菜を育てるための一つの方法として、ハウス栽培が最適と考えられますので、今年度はハウス栽培について研修したいと思えます。そして「健康は野菜から」をモットーに頑張っています。

囲碁クラブ

大谷 一裕

年間の活動は、次の通りです。

- 親睦囲碁のつどい
- ・十月頃予定(火曜日または木曜日の午後一時から三時頃まで)
- ・場所(原町区で)
- ・部員と関心のある方に、

後日、連絡致します。

・初めての方も大歓迎です
ので、お気軽にご参加下さい。

○囲碁を楽しむ会

- ・毎週水曜日午後一時より
- ・高平生涯学習センター

パークゴルフクラブ

浜名 俊明

○パークゴルフを楽しむ会
毎週木曜日 十三時～
・東武PG場にて

- ・十三時プレー開始
- ・商品多数有り

パークゴルフは、ワンコイン(五〇〇円)で一日楽しめます。

相馬地方に五つのPG場があり、体力や技術に合ったプレーも楽しむことができます。外で思いっきり体を動かしてみましよう。

俳句クラブ

江井 芳朗

各会員の研修は、各結社

所属の俳句誌により、多様であるからこそ発展し、味わい深い句が生まれるのだとも言われます。退職校長会の句も同様、多様で、個性が滲み出ていて、楽しい作品となっております。

コロナ禍で会員相互の研修会、懇親会が開催できないのが残念です。一同に集まり、本質を語り合い、深め合っていきたいものです。

また、郡や県内の各種俳句大会にも大いに投稿、参加し、作品内容の充実化を図っていききたいものです。

将棋クラブ

丹野 鐵生

今年も定例会を毎月第二、四土曜日の午前十時から十二時まで、そうまスポーツアリーナ二階会議室で、NPOそうま中央スポーツクラブの将棋クラブと合同で実施している。

しかし、令和二年三月から新型コロナウイルスが流行りだし、マスク、三密、換気に注意するようにとお達し。開店休業もやむ

その他プレー上での細則についても確認し、今年もゴルフを楽しみます。

釣りクラブ

杉浦 伸吉

会員十一名で活動していますが、参加者が限られてきています。気分転換に海を見に来ていただくだけでもいいですので、皆様の参加を願っています。

今年の計画は、五月相馬港、六月奥松島、七月仙台北港、九月石巻港、十月相馬港、十一月檜原湖の予定です。と言っても、本格的・専門的な釣りでなく、漁港や棧橋、防波堤などで一日のんびりと磯の香りや潮風を感じながらおにぎりや魚を食べて過ごす日程です。釣果はなくても教員時代に培った好奇心で仕掛けやエサを工夫したりそれぞ

れの魚の習性を学んだりして季節感を味わう釣りを楽しんでいます。

ゴルフクラブ

佐藤 宗信

四月十八日の定例コンペ後、総会を開き役員改選と年次計画を決めました。

○役員

- ・会長 佐藤 宗信
- ・副会長 菅野 耕平
- ・庶務 金谷 哲
- ・会計 鎌田 由人

○年次計画

・毎月第三月曜日を定例コンペ日と定める。但し、当日が祝祭日の場合はその翌日とする

・鹿島CCを主会場とし、パーシモンCCに一度、宮城野CCに三度遠征する。
・エイジシニーター表彰は年一回とする。

園芸(盆栽・山野草)クラブ、保健クラブ、書道クラブ、短歌クラブ・旅行クラブは休部中です。

東西南北

新地地区

本年度も総会の開催を見合わせ、資料の配布をもつてこれに替えたところです。一部役員の改選を行い菅野耕平さんが会長に、目黒寿一さんが副会長に就くことになりました。よろしくお願ひいたします。他の役員はもうしばらく継続となります。

七月に入り、新地町も相馬市同様、コロナウイルスの感染者が増加してきました。全国的に増加傾向にあり、第七波に入ったのではという報道もあります。果たして、計画している事業をどれだけ実施できるのか心配です。四回目のワクチン接種が始まりました。まずは、会員が日々健康に過ごせることが一番かと思っています。(吉田雄二)

相馬地区

今年度の退職校長会は、伊東敏勝氏と伊藤浩樹氏を

迎え五十八名となりました。三月十二日(土)理事会を行い、今年度の地区総会の開催について協議致しました。その結果、未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないため、やむなく中止と致しました。相馬市内では、なかなか新型コロナウイルス感染症の感染者数が減少しないところですが、九月には落ち着いてもらいたいと願うばかりです。

そして現職校長との合同研修会「重陽会」と秋の会員親睦の「紅葉刈り」の行事を開催できればと思います。(吉内次夫)



南相馬市鹿島区

コロナ禍の三・一六の地震。瓦五百、建物千の損壊。ブルーシートに覆われた中心部。人的被害のなかった

のが幸いでした。新たな課題も出て来ましたが、定期刊行物以外の活動ができるよう願っています。

- 一 定期刊行物の配布と現状把握(六月)
- 二 健やかにされているが、忙しい人も少なくない。
- 三 交流不足が気がかり。
- 四 区内新旧校長会
- 五 (情報交換)※実施未定
- 六 パークゴルフ(希望者)
- 七 夏季研修会※検討中
- 八 忘年会(十二月)
- 九 元気な顔合わせ・情報交換等できればと願っている。

南相馬市原町区

(星 和彦)

今年度も、総会に替え、書面表決で議案を決議し、高野敦夫会長の下、計画に基づき活動が始まりました。

慶事では、米寿で荒川澄氏、喜寿で只野恒雄氏、大石力弥氏、高橋忠夫氏、金婚で松本安彦氏、高齢者叙勲で佐藤光良氏、秋の叙勲で高篠忍氏の七名の方々に祝い品をお贈りすること

ができました。

コロナのワクチン接種が進む中、終息宣言が出ることを期待しながらも、新しい生活様式を定着させ、昨年中止したパークゴルフ大会や各クラブ活動も実施できればと願っています。(大原正義)

南相馬市小高区

本地区も各種行事が中止のまま二年が経ちましたが、

昨年度は「黒松会だより」第16号を発行することができました。今年度も五月十四日に、十九名の会員中十名の会員の参加(七名の委任状)で、総会を行うことができました。一年ぶりにお目にかかることができ、近況報告に多くの時間を費やしました。牛渡会長からは来年度の新役員案の提案もありましたが、今年も「黒松会だより」を発行しましょう、できれば秋の研修会を開催しましょう、と今年に掛ける思いが伝わりました。各行事が実施できることを願っています。(飯塚 宏)

ご冥福をお祈り 申し上げます

故 志賀 廣明先生(85歳)

令和3年11月25日逝去

昭和33年福島大卒。同年小野町立夏井一小を振り出しに、植田小、植田中、田人二小、大倉中、石神中、原町一中、原町二小に勤務。昭和58年いわき市立三坂中教頭に、石神中を経て、平成4年磯部小学校長に昇任。平成8年3月上真野小学校長を最後に退職。

故 高橋 忠夫先生(76歳)

令和4年6月11日逝去

昭和43年東北学院大卒。同年比曾小を振り出しに昭和48年福浦小、浪江小、原町第一小教諭。平成4年富岡養護学校教頭に。小高小を経て平成9年好間四小校長に昇任。平成12年幾世橋小、平成14年真野小、平成18年3月金房小学校長を最後に退職。

故 渡邊 傳衛先生(88歳)

令和4年7月23日逝去

昭和33年茨城大卒。言行一致、率先乗範を信条に同年川俣中を振り出しに昭和37年双葉中、川内中、浪江中、原町二中教諭。昭和61年飯桶中教頭に、相馬養護、小高中教頭から平成4年大堀小学校長に昇任。平成8年3月原町三中校長を最後に退職。

文芸

俳句

草野 博夫

枝豆の定植終りビール旨し
 梅雨晴れ間戦の如く草筆る
 青虫と争ひ勝利大きやべつ
 根切り虫夜間活躍とは卑怯
 集団で一番しつっこき油虫

荒川 澄

伝統の野馬追の里生れ嬉し
 相馬藩侯挨拶凛とお野馬追
 騎馬武者の伝達声に大拍手
 本陣へ神旗掲げて上りゆく
 お行列軍師の訓示威勢よく

金谷 哲

早蕨の天へ突上ぐ小さき拳
 金星と火星と地球の夏蜜柑
 青梅雨や万年筆の青き文字
 山背吹く震災遺構の表示板
 屋根修理終へし夕方夏の雨

江井 芳朗

初蟬の耳を疑ひつつ老ゆる
 噴水の集中揺らぐ事のあり
 喜雨仰ぎ羅漢秘むる笑ひ声
 満面の新茶香を匂に欲っす
 枝豆の食べ頃なりし復興畑



川柳

山野辺 久

曾孫来るテンテン手毬
 はずんでる
 しあわせは曾孫の笑顔
 見てる時

庄巻はセリフ無用の夫婦劇

卒寿坂越えてなだらか

日向ぼこ

ありがとうの言葉で綴る

日記帳

前山 利栄

いじめっ子酌して回る
 喜寿の会
 女医さんの笑顔に会える
 金曜日

茶碗酒遺影の父と語り合う

母の背で眠ってみたい

酒二合今日も平和を

安良 紀男

愛犬につられて老いの
 散歩道

趣味多彩多忙な妻の

日が暮れる

願い叶えば素通りになる

ときめきの出会いをくれた

大鳥居

一万歩歩いてみたい万歩計

震度6天の牙むく

無慈悲かな

彫刻

伊達 孝行

高さ約五十一センチ、横
 十六センチ、奥行き十一セ
 ンチの観音像です。



奇をてらう手法は常に

覚悟居る

体調にでこばこあつても

円く生き

編集後記

新たな試みとして新入会
 員の方々の顔写真を入れて
 みました。また、文芸欄で
 の短歌と絵手紙はお休みと
 なります。これまで作品を
 お寄せいただいた会員の方
 々には心より御礼と感謝
 を申し上げます。

さて、新型コロナも第七
 波！その中で、盆踊りや花
 火大会、成人式等も工夫を
 重ねて催されているのは少
 しばかり明るいニュースで
 す。一刻も早い収束で私た
 ち退職校長会会員相互の活
 発なる交流ができるよう念
 願っています。

編集委員

但野 良子(新地)

高橋 誠(相馬)

大谷 一裕(鹿島)

杉内 律子(原町)

飯塚 宏(小高)